

歴史通信

令和2年4月16日

第9号

社会科 青木 慎弥

『燃えよ剣』新選組鬼の副長～土方歳三～



土方歳三



ディーンフジオカ



銀魂の
土方歳三



薄桜鬼の
土方歳三



浅葱色の
隊服



黒色の
隊服



隊旗



三条大橋の
擬宝珠

刀傷

今回はみんな大好き新選組についてです！「銀魂」「薄桜鬼」で馴染み深い人も多いですね！実はV6の岡田准一（土方歳三役）主演の映画『燃えよ剣』が2020年に公開となりました。『燃えよ剣』とは司馬遼太郎の作品で国民的ベストセラーになった本です。是非みなさんには映画を観に行きたくて欲しいのですが、その前に少し予習を！という意味を込めて今回は新選組副長の土方歳三の生涯を見ていきたいと思ひます。

土方歳三と言えば、とっても「イケメン」！最近ではディーン・フジオカが似ているということで話題になりました。だからとにかくモテモテだったそうです。土方歳三は天保6年（1835年）5月5日に武蔵国多摩郡石田村（現・東京都日野市石田）に農家の10人兄弟の末っ子として生まれます。そう！実は農民だったのです。だからこそ「武士よりも武士らしく」生きた人なのです。土方はそのすずしげな顔に似合わず、子どもの頃からケンカが強く暴れん坊で、触れたものをケガさせるイバラのような子どもということで「バラガキ」と呼ばれていたそうです。そんな土方は農民ではなく、武士に憧れます。だからいろいろな道場に通い、20代のときに天然理心流の試衛館に入門します。天然理心流はスポーツ剣術ではなく、実戦を限りなく意識した剣術だったため、それが後に京都で最強と呼ばれる剣術集団「新選組」へとつながっていきます。ちなみに、この試衛館で運命の出会いがあるのです。後に新選組の局長となる近藤勇がこの試衛館の天然理心流4代目当主でした。そして、この試衛館で門弟や食客として、後の総長、山南敬助。一番隊組長、沖田総司。二番隊組長、永倉新八。三番隊組長、斎藤一。六番隊組長、井上源三郎。八番隊組長、藤堂平助。十番隊組長、原田左之助。この豪華メンバーと出会うわけです。特にこの沖田・永倉・斎藤の強さは化物じみた強さだったそうです。それに対し、土方は強さよりも戦術や組織を統べることに長けていたようです。簡単に言えば頭がキレッキレだったようです。

そして、とうとう土方が武士になるチャンスが到来します。文久3年（1863年）2月、江戸幕府14代将軍・徳川家茂警護の募集が行われ、仲間と共に浪士組に応募し、京都へ向かいます。当時の京都は毎晩のように「血の雨が降る」と言われるぐらい、暗殺が横行していました。京都の朝廷には天皇が鎮座し、その天皇の威光をめぐって、長州を中心とした維新志士が暴れまわり、それを武力で抑え込むため幕府に派遣された会津藩主松平容保を中心とした藩士が取り締まるといった構図でした。ちなみに「るろうに剣心」の主人公である緋村剣心（抜刀斎）は長州側の人斬りがモデルになりました。そこで、土方達はいろいろあった後に、長州など尊攘派からこの京都の治安を守るため、会津藩に抱えられます。当初は京都の壬生に屯所を構えたため、壬生浪士組（壬生狼）と呼ばれており、同じ江戸から登ってきた芹沢一派と近藤一派の合同隊でした。筆頭局長は芹沢鴨（せりざわかも）が務めていましたが、この芹沢鴨が強烈な人物で、自分の気に入らないことがあれば大暴れする、店を脅して金をぶんどったり、店を燃やしたり、道を譲らなかった力士を殺したりと無茶苦茶なことをしていました。その結果壬生浪士組はものすごく京都の人から恐れられ、嫌われていました。そんな誰も手がつけられない芹沢に対し、とうとう土方は決心し沖田や原田などと共に暗殺します。もちろん近藤には秘密で、です。つまり、新選組を守るため、誰からも好かれる兄貴肌で、卑怯なことはしない真っすぐな性格の近藤を大将として立て、組織の汚れ役は全て土方が受け持ったようです。そして芹沢一派を追い出し、近藤を中心とした新たな新選組が誕生します。

新選組と言えば有名な浅葱色（水色っぽい色）の隊服ですね。ダンダラ模様と言われる山型の袖は近藤が憧れた

忠臣蔵の赤穂浪士の服からきているとも言われています。この浅葱色は切腹するときの死装束の色なので縁起が悪かったため、京都では不人気だったそうで、短期間で黒の隊服に変えられたといわれています。ちなみにこの服は京都の大丸がつくったといわれています。また「誠」の旗は高島屋がつくったそうです。

そしてとうとう元治元年（1864年）6月5日、池田屋事件が勃発します。池田屋とは三条小橋たもとにあった旅籠で現在は建っていた場所に居酒屋「池田屋」というのがあります。そこに集まっていた長州藩や土佐藩の尊攘派過激浪士を、新選組が襲撃した事件です。元治元年6月5日朝、新選組は尊攘派の古高俊太郎を捕らえました。そして土方が恐ろしい拷問をします。やはり汚れ役はいつも土方ですね。新選組の発表では古高が拷問の末、語った内容は「風の強い日に御所に火を放ち、その混乱に乗じて天皇を長州へとお連れし、一橋慶喜（後の15代将軍徳川慶喜）と会津藩主・松平容保を暗殺する」という計画を話し合う会合というものでした。後に長州側は古高を救出するための会合だったと言っていますので事実は分かりませんが、間違いないことは池田屋を舞台に歴史が動いたということです。その夜、長州の桂小五郎・吉田稔麿、肥後の宮部鼎蔵などの超大物を含め15名程度が会合をしているところに踏み込むべく出陣します。ちなみに、新選組は3隊に分けて捜索していました。その一つの近藤隊10名が池田屋で尊攘派志士を発見し、表口と裏口を3名ずつ固めさせ、近藤勇、沖田総司、永倉新八、藤堂平助のわずか4人で突撃します。戦闘は激しさを極め、まさに血で血を洗う戦いとなりました。京都で新選組が強かった理由は二つあるといわれています。まずこの当時、京都の旅籠はわざと天井を低くしているところがありました。なぜだか分かりますか？刀を振るえないようにです。普通に刀を振れば天井や鴨居に刀が引っかかっちゃうのです。だから、屋内では太刀ではなく、脇差の方が有効だったという人もいます。（武士の刀は普通2本です。長いのが太刀、短いのが脇差）。新選組は京都の町での戦いを熟知していました。そしてもう一つは近藤や沖田など天然理心流は突きが有名です。突きなら天井には当たらないですよ！しかし、それでも多勢に無勢、激しい戦闘で、新選組にも死者が出ます。また、北辰一刀流藤堂平助は額に大けがを負います。また、沖田はこのとき肺結核で吐血したというシーンが映画やドラマでよくありますが、これは諸説ありです。そんな大混戦の中、土方隊が到着します。そこで新選組は人数的に有利になったことから斬り捨てから捕縛に切り替えます。尊攘派の助けがきたりと、大混戦は店外にも広がり三条大橋でも大立ち回りが行われます。その時に三条大橋の擬宝珠（ぎぼし＝たまねぎみたいなやつ（笑））についての刀傷が今でも残っていますので是非観に行ってください。この事件で尊攘派は宮部や吉田など多くの志士を失います。しかし、桂小五郎は運よく池田屋に早く着きすぎて誰もいなかったので一旦別のところに行っていたとき事件が起きたので助かりました。もし、桂が討たれていたら後の薩長同盟や明治維新はどうなっていたのでしょうか？まさに運命ですね。ここで土方がまたまたスゴイところに気がつく。このとき、新選組の他に味方の会津藩・桑名藩が駆け付けますが、土方は戦闘に参加するのではなく、会津・桑名を近づけず、池田屋には入れない役目をしました。つまり、会津・桑名や新選組など、味方みんなの手柄ではなく、新選組だけの手柄にするためです。まだ立場の弱かった新選組のことを考えての行動で、土方らしい冷静な機転です。そのため池田屋事件の恩賞は破格のものとなり、天下に新選組の名が轟きました。そして、大人気になった新選組は200人を超える部隊になり、いろいろなトラブルが起きます。そのため、歳三は「局中法度」という、隊のルールを厳しく運用します。破った者は一切の例外なく切腹という恐ろしいルールです。何と切腹や処刑の数は戊辰戦争までで45人を超え、尊攘派の敵に殺された数よりも、はるかに多くなりました。その中には、試衛館からの仲間で、幾度も共に死線を潜り抜けた山南敬助もいました。これが「鬼の副長」と呼ばれる所以です。歳三は新選組を守るために一番嫌われる役を常に買って出たのです。

時代はうねり、坂本龍馬の仲立ちで西郷隆盛と桂小五郎との間で薩長同盟が成立し、幕府軍との全面対決「戊辰戦争」が起こります。その第一ラウンドとして「鳥羽・伏見の戦い」が起こります。大砲や銃火器の戦争で、新選組は刀を持って果敢に斬り込みましたが、敗退します。そして甲州勝沼の戦い、会津戦争と敗走を続けます。その頃までには近藤は打ち首、沖田は病死、山南は切腹、藤堂は斬殺。原田・永倉・斎藤は本隊を離れ、原田は彰義隊と共に上野戦争で討ち死にをします。歳三が北海道五稜郭についたときは、試衛館からの仲間はだれもいなくなりました。それでも歳三は最後まで「誠」の旗を掲げ戦います。最期は単騎敵陣に突っ込んだとも銃弾で倒れたとも言われています。つまり、最期まで新選組を守り続け、仲間と共につくれた新選組を誰よりも愛したのは土方だったのです。